

道徳だより

栃木市立西方小学校

平成29年度

No. 2

◆本年度の道徳教育について◆

これからの時代をよりよく生きていける児童を育成していくために、本校では、道徳教育に力を入れて取り組んでいます。昨年度より、

「9年間を見通した一貫性のある道徳教育の推進 ～主体的に考え、伝え合う道徳の授業の工夫～」

を研究主題として取り組んでいます。9年間の道徳教育をとおして、4つの視点に対してそれぞれに以下のような子ども像を目指しています。

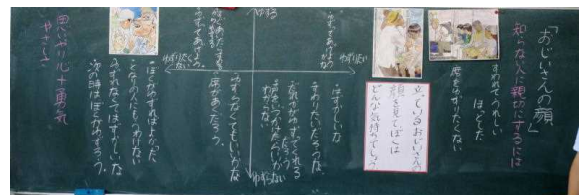
- (1) 「より高い目標をもって、勤勉に、くじけず努力し、自分を向上させる子ども」
(主として自分自身に関すること)
- (2) 「相手に対する思いやり、尊敬と感謝の気持ちをもつ子ども」
(主として人とのかかわりに関すること)
- (3) 「生命あるすべてのものを尊敬し、尊重する子ども」
(主として生命や自然、崇高なもののかかわりに関すること)
- (4) 「学級や学校、地域の中で自分の役割と責任を自覚し、集団をよりよくしようとする子ども」
(主として集団や社会とのかかわりに関すること)

今年度は、年間3回の授業参観のうち1回は、道徳の時間の授業を全学級で公開することにしています。道徳の授業を通し道徳性を育み、上記のような子どもの育成を図っていきたくと思っています。どうぞご参観ください。その際簡単なアンケートにご協力をいただくこともございます。

◆研究授業を行いました◆

道徳の研究を進めるため、本校の教員に加えて、西方中学校、真名子小学校の先生方にもお越しただいて研究授業を行いました。栃木市教育委員会の方に指導を受けました。

日 時 6月19日(月) 5校時
学 級 4年1組
授業者 富田勝巳教諭 山田京子教諭
資料名 「おじいさんの顔」(文溪堂)



電車の中で、重い荷物を持ったおじいさんに席を譲ろうかどうか迷う主人公の心の葛藤を考えさせました。その上で自分ならどう行動するかを考え、グループで意見交換を行いました。総合的な学習の時間に行った高齢者体験を踏まえて考えている児童もいました。授業のまとめとして親切な行為をするためには、思いやりの心だけでなく勇気も必要なことに、児童たちは気づいていました。道徳の時間は、自分の心と向き合う時間となるよう、さらに工夫していきたいです。

ご家庭でも「思いやり」や「親切」について、話し合ってみてはいかがでしょうか。また、日常生活でお子様が「思いやり」の気持ちを持ち、「親切」な行動がとれた時は、おおいにほめてもらえると幸いです。家庭の方々、地域の方々と学校が連携して、子どもたちを育てていければと考えています。どうぞよろしく願いいたします。